

## アルテミス (ギリ) Artemis)

(「新聖書辞典」より)

●ラテン名はディアナ。ギリシヤ神話のゼウス神の娘で、アポロンとふたごの姉妹である。この女神は、狩猟の女神、出産と肥沃の守護者であり、純潔と処女性の象徴として崇拝されていた。

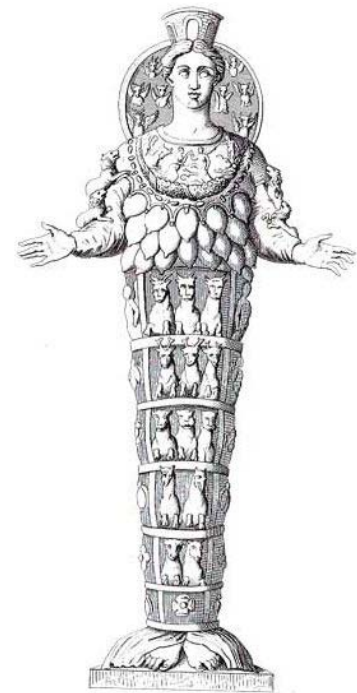
●使 19 章に出てくるエペソのアルテミスは、古い昔から小アジア地方で礼拝されていた壮大な母神の地方的形態であり、神々や人間の母神として崇拝されていたものである。いわゆるギリシヤ神話のアルテミスとはかなり性格を異にしているが、やはり豊穡の女神であり、イエス・キリストの福音が最初に伝えられた頃、「全アジア、全世界の拝むこの大女神のご威光」(使 19 : 27) と叫ばれるほど繁栄し、当時の世界 30 箇所以上で礼拝が行われていたことが明らかにされている。

●その神殿は**古代七不思議の一つ**とされている。前 6 世紀に着工され、約 200 年の歳月をかけて完成した。その後火災によって焼失したが、再建された神殿が発掘されてその全貌が明らかになった。その広大さは、アテネのパルテノン神殿の 4 倍大で、敷地の上に 13 階段を経て上る神殿は奥行 103 メートル、間口 43 メートルの広さであり、そこには直径 1.8 メートルの大理石円柱が 100 本立てられ、そのうち 36 本には高さ 3 メートルの所まで等身大の女人群像が浮彫にされている。

●アルテミスの像は、その神殿の中にある内殿に安置されていた。

「天から下ったそのご神体」(使 19 : 35) という表現から、黒い隕石を刻んで造ったものであろうと思われる。しかし一説にはぶどうの木を彫刻して黒く塗ったものとも言われている。エペソのアルテミス像は古代からの東洋的な象徴主義で表現され、肥沃の象徴としての多くの乳房、小果実の飾環、その全身に密生する種々の動物は、彼女が動植物の保護者であることを示しており、また、頭にかぶった冠に刻まれた 3 つの門のある城壁はエペソの守護神であることを示している。毎年アルテミスの月(太陽暦の 3—4 月)に行われる祭はきわめて官能的で、神殿売春を伴っていた。そこに多くの参詣人や観光客が訪れ、莫大な富をもたらしていた。

●また、アルテミスの神殿の存在によって巨大な収益を得ていた多くの集団がエペソに存在していた。その中には神殿の模型を大理石製、焼き物製、銀製などで作って参詣人たちに売っていた人々がいた。ことに銀細工人組合は銀製の神殿模型の上にすえられた女神アルテミスの銀の像を製作し莫大な利益を得ていた。



18 世紀の複製

